

## マテリアリティの特定

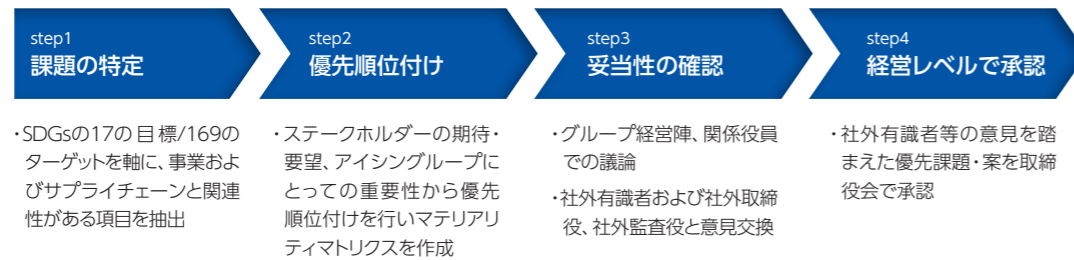
アイシングループは、創業以来、「品質至上」を経営理念の基本とし、お客様に喜ばれる魅力ある商品づくりに取り組んでまいりました。また、「豊かな社会づくりへの貢献」「社会・自然との調和」を経営理念に掲げ、持続可能な社会の実現に貢献する企業行動の実践を推進しております。

アイシングループのこのような価値観・取り組みは、2016年1月に発効した国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」と親和性が高く、今後も、事業活動を通じ、SDGsの達成に貢献できると考えています。

これらの取り組みを加速するために、当社グループとして注力していくマテリアリティ(優先課題)を選定しました。



### マテリアリティ(優先課題)の選定



### アイシングループのマテリアリティ(優先課題)

SDGs該当目標	マテリアリティ(優先課題)	責任部門とめざす姿
3 すべての人に健康と福祉を 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	・地球温暖化防止 ・交通事故低減 ・安全な移動・輸送手段の提供	<b>自動車部品事業</b> ・エネルギー使用量の削減やクリーンエネルギーの活用、さらに安全・快適な移動手段の提供を通じ、より地球や人に優しいモビリティ社会づくりに貢献
11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を	・クリーンエネルギー転換の推進 ・健康と福祉の促進	<b>エネルギー・住生活関連事業</b> ・クリーンで高効率なエネルギー関連商品の普及や快適な住生活空間の提供を通じ、より良い暮らしと環境に配慮した街づくりに貢献
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任つかう責任	・技術革新による持続可能な産業化の促進 ・汚染防止、環境負荷物質削減、資源循環、資源効率の改善	<b>全事業共通</b> ・未来に目を向けた研究開発による新たな価値の提供を通じ、豊かで持続可能な社会づくりに貢献 ・地球環境への負荷「ゼロ」をめざした取り組みの推進により、循環型社会への移行に貢献
3 すべての人に健康と福祉を 8 働きがいも経済成長も	・健康・労働安全衛生、人権保護、多様性の促進、働き方改革、ワークライフバランス ・持続可能な調達	<b>全グループ共通</b> ・サプライチェーン全体を視野に入れ、多様な人材が生き生きと安心して働ける職場環境の確保をめざした取り組みの推進

事業活動を通じた社会課題の解決

活動を支える経営基盤

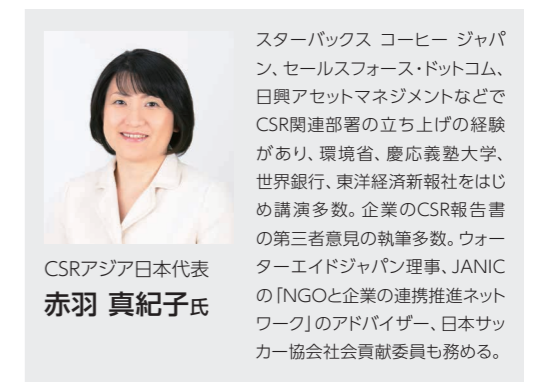
コーポレート・ガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント

### 外部有識者からの主な意見

アイシングループは、マテリアリティの選定とSDGsの関連付けについて、社外のステークホルダーおよび自社にとっての重要性をそれぞれ縦軸・横軸に取り、その2つが最も高いものを特定する手法をとられています。この手法は、世界の多国籍企業でも多く実施されており、妥当なものだと評価できます。また、多くの企業ではマテリアリティを絞り込んでおり、アイシングループが絞り込んだ7項目もきわめて妥当なものです。

ここで大切なポイントは、これらの項目の目標達成度について明確な基準を定め、自社の取り組みの効果を客観的に示すことです。そして、SDGsに取り組む前の「ビフォア」と取り組んだ後の「アフター」において、定性的あるいは定量的に効果を測定できること、そして目標達成への貢献度を示すことができるかどうかです。今回マテリアリティを選定しましたが、状況に変化があれば見直すなど柔軟に推進していくと良いと考えます。

最後に、海外グループ企業については、必ずしもトップダウンが有効ではなく、現地に一定の権限を委譲し、判断してもらったボトムアップ型の方が奏功する場合も多いです。現地の知恵を活用して定着を図ることを推奨いたします。



詳しくはこちら  
<https://www.aisin.co.jp/csr/aisin-group/materiality/>

